

④ 再び漁獲量  
 すでに述べたように、漁業者A、B、Cの3人について調査した結果、トビイカを漁協のセリ市場へ搬入する日数は出漁日数の31%であったが、これらの3人のうち2人は漁協前の仲里漁港、1人は鳥島漁港をそれぞれの根拠地とし、いずれも漁協に対する理解者であるので、全体としての搬入割合はこれよりもいくぶん低くなるものと考えられる。今、全体の搬入日率を30%とし、1出漁日当りの平均漁獲量を20~25kgとすると、久米島における56年度のトビイカ生産量は、搬入延日数731日(表8)から逆算して、約49~61トンであったことになる。一方、単純に搬入量そのものが漁獲量の30%と考えると、総漁獲量は約51トンであったことになる。

⑤ 漁期  
 久米島におけるトビイカの漁期は7月下旬から12月下旬までで、盛期は9月~11月中旬であった。漁業者の話では、今年は例年よりも漁期がいくぶん遅れており、普通は7月上旬から11月下旬頃までが漁期で、盛期は寒露の頃であるという。

⑥ 漁場  
 久米島のトビイカ漁場は島まわりの極く近い所に形成される。標本船の操業位置を中心に

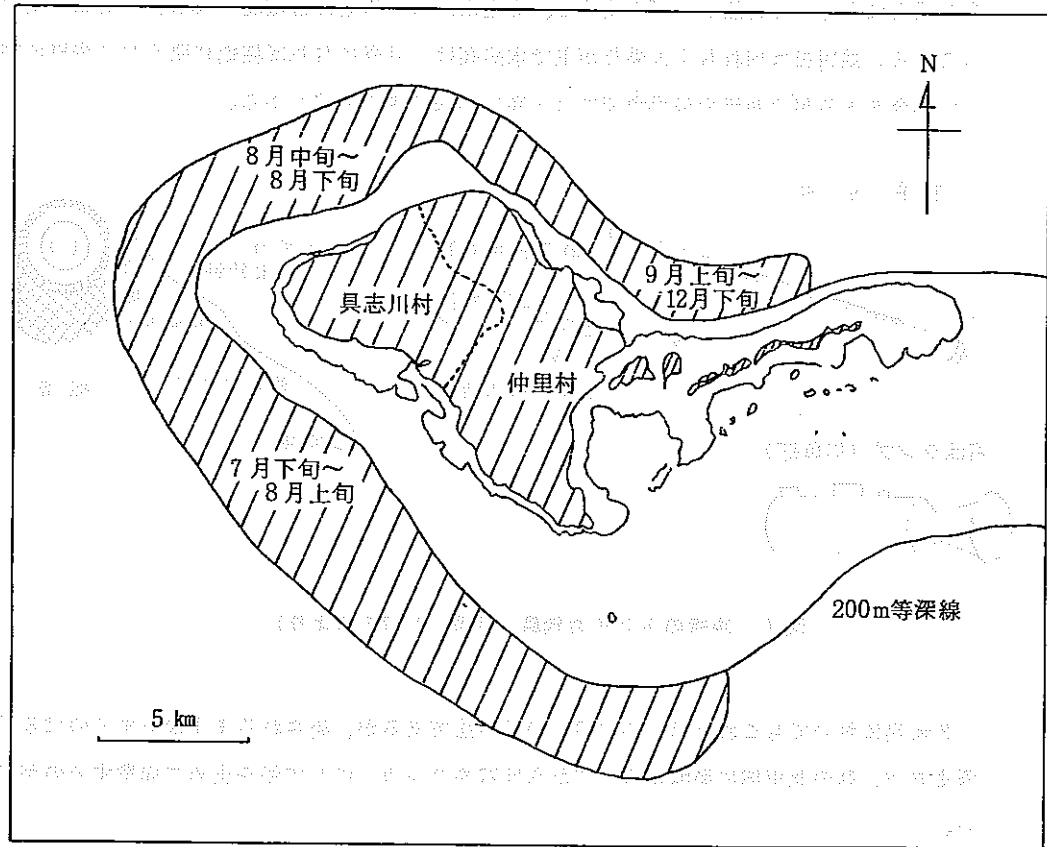


図3 久米島周辺のトビイカ漁場